

■議会による行政評価 基本目標提言取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標	3 地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・知育力を活用した飯田らしい小中一貫連携教育を行ったことで、どのような人材が育まれたか（生き抜く力：主体性、柔軟性、協調性、コミュニケーション力、グローバルな発想力とローカルな視点での行動力、倫理観と、それをもとに心豊かな人材にどの程度育ったのか）を指標化すべき ・ICT教育の成果指標（21世紀型スキルの習得状況はどうか）を指標化すべき （・そもそもどうして指標なのか？目標でないのか？）
古川	<p>・戦略では、知育力を生かした飯田らしい小中連携一環教育、多様な学習交流推奨、リニア時代を生きぬく力とし{主体性・柔軟性・協調性・コミュニケーション力・グローバルな発想力・ローカルな視点での行動力・倫理観}を培う人材育成とあるが、大変盛りだくさんである。この戦略が全てできれば素晴らしいことだが、現場で指導されている教職員の方々のご負担とご苦労はいかばかりかと考えます。現場の方の実態もつかみながら進められたい。</p>
山崎	
永井	<p>・「生きる力」を身に着けるさせるためには親の影響が何と言っても大きい。子どものしつけや育て方に不安を持つ親が高校生になっても一定割合いる。子育て支援課も一緒になって学べる仕組みを考える必要がある</p>
福沢	<p>・コミュニティスクールの現状などを地域の方に知っていただくよう「コミュニティスクールだより」の発行を各地区で行うよう市として、支援をしたらどうか。</p>
新井	<p>③・四年生大学がない地域にとって貴重なプログラムである地域人教育。今後01DE高校以外での水平展開と、一般社会への周知の強化は、企業の人材不足や後継者育成に繋がる。</p> <p>・ICT教育の旨みは、学力に限って言えば、指導力にばらつきが無く、一律に、それも早く展開できる場所である。本来は県教委がスピーディーに対応するべきところと思うが、南信州広域連合議会でも提言したが、飯田下伊那一律に学力の安定化のためクラウド化を進め、県教委の教師の人事異動が行われても基礎の学習ベースがぶれないようICTの充実を14市町村で進めるべきである。</p> <p>④・時代の過渡期であり、特に世代間のギャップが大きい。主役である生徒たちの将来を見据えた教育環境整備を先進地に学び追従できるよう期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の全エアコン整備 ・通学路の安全確保 ・小人数規模（20人程度か）学級への推進、もしくは指導者の増員 ・通学区の見直しや統廃合 特に追手町と浜井場 空き校舎は歴史研究所と美博の有効活用。 ・今後議会も教育費の確保や教育現場の課題解決に対し、共に汗をかかねばならない。
吉川	<p>・コミュニティスクールについては、学校と地域の理解を深めると共に、学校運営協議会が本来の意味で機能するよう、教育委員会が中心となって進められたい。</p>
集約	

■議会による行政評価 基本目標提言取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標	4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域振興の知の拠点」の地域振興という言葉の持つ意味の深堀りとその共有、周知が必要ではないか。 ・指標数値それぞれの目的（根拠）の明確化と、意識統一、共有が必要。 ・美博来館客数の細分化した目標設定化（月次、展示ごと、新規客数、リピーター数等） ・知の拠点によって地域振興がどう進んだのかの指標が必要。 ・この戦略によって、新たな文化がつくりだされた、もしくは創り出されつつある状況がわかる指標 ・史跡名勝を保存、整備し続けるためには活かさなければならないと考える。その取り組みの一つとして、民間事業者と協力してもらいサウンディング調査をしたらどうか。活用することで結果的に保存、整備されることになるのではないか。
古川	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい遺跡や史跡など宝があるのに、多くの方に知られていないのが残念である。人形劇の街でもあるので遺跡や史跡のゆるキャラやグッズをデザインしPRをしてはどうか。
山崎	
永井	
福沢	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな文化をつくりだす」という基本目標が気になる。この「新たな」という記述について認識を一致させたい。
新井	<ul style="list-style-type: none"> ④本物が本物と呼ぶ。ユネスコ等のブランド力を活かしていない。 ・エコパークやジオパークの連盟を早期に立ち上げ、議員ももちろんだが、行政間の連携が必要。 ・人形劇Fは、地域内や劇人のためのFなのか。人材育成の結果は、観光客を含め多くの皆さんに観ていただきさらに磨かれるものと思う。 ・ローカルではあるが、市民が人形劇にまつわるCM大賞を受賞した。そういった名誉或る賞を市は活かしていない。 ・大交流時代、大都市圏の本物志向者を如何にリピーターとしてつなげることができるかが課題
吉川	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域振興の知の拠点」ではなくて美術博物館・歴史研究所・中央図書館を中心とした「文化の拠点」として、史跡や祭り文化を合わせた拠点構想を検討されたい。 ・目標値の設定については作業をしながら積み重ねていくもの（フォーキャスト）と目標を定めてその値を達成するために対策を取るもの（バックキャスト）があり、明確にすべき。 ・恒川清水には水が枯れたままではなく水を湛え、古墳には内部に石棺や埋蔵品を陳列する等臨場感を持った整備をすることにより、市民が興味を持てるような事で目的を達成すべき。
集約	

■議会による行政評価 基本目標提言取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標	5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・出生数の目標設定が必要。 ・若い世代の満足度（結婚、出産、子育てについて）を指標化したらどうか。 ・子どもを産みやすい環境の街だと思ふ人の割合の目標設定70% ・子育てしやすいまちだと思ふ人の割合の目標設定70% ・出会いの機会の創出だけでなく、自分自身をみつめる取り組み、コミュニケーションスキルや自分の魅力アップのための取り組み支援が必要ではないか。 ・小戦略の並び順を、基本目標の内容の通り（結婚、出産、子育て）にした方がよいと考える
古川	
山崎	<ul style="list-style-type: none"> ・国の保育料無償化が実現すると、保育ニーズは更に高まることは確実で、一方都市部では保育士の獲得競争が過熱してきておりこれらが待機児童の発生、増加につながっていく。今のうちから、実態を正確に把握した上で、対策を練っておく必要がある。
永井	
福沢	<ul style="list-style-type: none"> ・市として保育に必要なサービスを拡大しているにもかかわらず市民調査によると「子どもを産みやすい街と思ふ人の割合」があまり増えていない。どのようなことが必要かさらに詳しく分析する必要があるのではないかと考える。
新井	<ul style="list-style-type: none"> ・民営化の流れは今後の大きな課題である。幼児養育の無償化を契機に、市でも調査研究は必要な時代ではないか。今後さらに多様な子育て環境のニーズが考えられる当地域。特に民間事業者の特化した幼児教育の優位性を下支えできるよう願う。 ・幼児教育は民間を中心に充実してきた。もちろん公立も山保育等独自性が魅力を増してきた。次は、小規模特認校やユネスコスクール等、小中学校の選択肢の充実に取り組んでいただきたい。
吉川	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年の婚姻件数が前後の年と比べると100件程度多い。この年の転入も前後の年と比べると男女とも25～29歳が70～80人多くなっている。このことは良いことではあるが異常値と認識すべき。又、2016年の出生率は全国平均を上回っており、前年の婚姻件数からすれば当然のことと判断できるが、このようなことが、作為的に出来るとするならば、対策すべき。調査方法：婚姻届けを出した553人にアンケート調査を行う。調査項目：2015年に婚姻した理由・転入してきたかどうか・転入するきっかけ・転入の理由とどこから・住居等々このような調査をすることによって、検討する方向性が見いだせると考える。 ・ネグレクトの値は2倍となり、異常値と捉えるべき。データを取るだけでなく、速やかな対応（原因・対策・処置）が必要。
集約	

■議会による行政評価 基本目標提言取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標	6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・30年後の人口や介護保険を取り巻く状況をシミュレーションして計画を策定されたい。 ・健康寿命の指標設定 ・介護予防事業について、特に男性の参加数、参加率の向上のための取り組みと男女別の指標化 ・特に若年層から働き盛りの世代の生活習慣病予防についての指標化 ・この計画で社会保障費がどの程度抑えられたのかの指標化
古川	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防は進められてはいるが、この予防活動でどれだけの医療・介護抑制となっているのかははっきりとはしない。今後、数値化・データ化され医療費や介護料の抑制につなげられたい。
山崎	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率において、県の数値との乖離の理由を正確に把握し、取組を進められたい。 ・インセンティブの仕組みを早期に導入されたい。
永井	
福沢	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の介護事業への参加率が少ない。男性のみのイベントを検討し、参加率の向上を図られたい。 ・特定検診受診率について、地域、年齢、職業などの特徴を検討し、きめ細かい勧誘を実施されたい。
新井	<ul style="list-style-type: none"> ・健康は他からあたえられるモノではない。自身の行動が後に結果となって表れることが多い。その当たり前の事への意識改革が必要であるが、誰しもまさか自分がこんなことになるとは、ではないでしょうか。幼児期からの積み重ねが老後まで繋がる事実を早期から教育実践できる飯田市としたい。また、地域ごとに特定検診の受診率のばらつきがあることの分析とそれに対する改良改善。これ以上の民生費の肥大化は、次世代への投資への影響がある事実は、かわいいお孫さんの笑顔のためと思い、できることをできるだけ協力いただける行動へつなげていただきたいです。
吉川	
集約	

■議会による行政評価 基本目標提言取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標	7 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者同士で支え合う取り組みの検討 ・高齢者、障がい者の社会参加（地域行事等）の指標化
古川	<ul style="list-style-type: none"> ・住民支え合いマップなど地域住民の方や民生児童委員・ボランティアさん・まちづくりの方など支援体制を進めるのは良いのだが過度な協力要請にならないようされたい。
山崎	
永井	
福沢	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域での福祉課題について、自治会長と健康福祉委員が協議するよう市として促すようなことができないか。
新井	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期からの行動が将来に結果として行動に表れる。幼児教育、公教育の充実こそが必要と考えます。 ・各種団体もなり手不足。
吉川	<ul style="list-style-type: none"> ・例えばKPIに独居老人の数と交流している人の割合を表し、共助の目安とする。
集約	